

平成30年 9月

稲田耕大 学位論文審査要旨

主 査 景 山 誠 二
副主査 千 酌 浩 樹
同 井 上 幸 次

主論文

Effectiveness of real-time PCR for diagnosis and prognosis of varicella-zoster virus keratitis

(水痘帯状疱疹ウイルス角膜炎の診断と予後に対するリアルタイムPCRの有用性)

(著者：稲田耕大、宮崎大、魚谷竜、清水大輔、三宅敦子、清水由美子、井上幸次)

平成30年 Japanese Journal of Ophthalmology 62巻 425頁～431頁

参考論文

1. コリネバクテリウムが起炎菌と考えられた感染性角膜炎の1例

(著者：稲田耕大、前田郁世、池田欣史、宮崎大、井上幸次、江口洋、塩田洋、桑原知巳)

平成21年 あたらしい眼科 26巻 1105頁～1107頁

2. 感染性角膜炎におけるグラム・ファンギフローラY®二重染色の有用性

(著者：宮崎大、魚谷瞳、魚谷竜、武信二三枝、稲田耕大、三宅敦子、井上幸次)

平成25年 日本眼科学会雑誌 117巻 351頁～356頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、活動性のVZV角膜炎の診断と予後推定のために、リアルタイムPCRの診断的意義を明らかにすることを目的にしたものである。VZV角膜炎の診断あるいは除外診断が必要であった545眼を対象に、リアルタイムPCRによりVZV DNAのコピー数を定量している。その結果、角膜表面洗浄液中のVZV DNAの存在が、眼周囲の皮疹などよりも、VZV角膜炎と強く関連していることを示した。さらに、VZV DNA量が多いほど、角膜炎の罹病期間が遷延することを示した。このように、角膜表面洗浄液中のVZV DNA量の定量は、VZV角膜炎の診断に加え、予後の推定に有用であることが判明した。本論文の内容は、新たなVZV角膜炎の診断方法を提唱するものであり、眼科診断学の領域で、明らかに学術水準を高めたものと認める。